

令和2年度 福島県立光南高等学校 第二十五回 入学式 校長式辞

県南の地に光が差し、春の訪れとともに、ここ矢吹町の桜も満開となりました。本来ならば、保護者の方にもご臨席いただき、令和最初となる光南高校の第二十五回入学式を挙行する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、生徒のみの出席で開催することとしました。

ただ今、入学許可しました二百名の新入生諸君、入学おめでとう。君たちの新たな門出を祝福しますとともに、本日まで陰に陽に暖かく見守ってこられた君たちのご家族の皆様にも、心からお祝いを申し上げます。

突然の予定変更にもかかわらず、君たち一人一人の眼差しからは、今日から始まる高校生活に不安を感じつつも、新しい生活への期待と意欲が漲っており、大変心強く感じるところです。

君たちが入学した光南高校は、今から二十四年前、県や旧職員、そして地域の方々の熱い思いにより、高校教育の在り方を一から見直し、県内初の総合学科高校として開校しました。

総合学科とは、これまでのどの学校で学んだかという学歴偏重の社会を改め、どのような知識や技能、資格を身に付けたかなど、学習の経歴を重視する、言わば学習歴社会を創り出すという崇高な理想の下、普通科、専門学科に並ぶ新たな学科として設けられました。

自由、責任、創造を校風とする光南高校は、六つの系列、百を超える選択科目の中から、自分の興味・関心に合わせて学ぶことや、生徒主体で取り組む生徒会活動と三十種類の部活動などで活躍することができます。そして、様々な個性や特技をもつ素晴らしい生徒たちが在籍し、普通科高校を上回る数多くの教職員が配置されるなど、学びの多様性は他校を圧倒しています。

第二十五期生となる君たちには、日々の授業や部活動はもとより、学校行事や大会、発表会、資格試験、ボランティア活動など、様々な場面で積極的に挑戦し、多くの成功と失敗の経験を通して、自分自身を理解し、将来の生き方や在り方、そして志を見出してほしいと考えています。私たち教職員一同、君たちの心に寄り添い、夢や希望、進路の実現に向けて、精一杯サポートしてまいります。

君たちとともに過ごす光南高校の、学校経営方針は次の三点です。

- 一つ、多様な個性がコラボレーションする学校
- 一つ、社会の中で生き抜く力を育む学校、
- 一つ、安心して学び続けることのできる学校 です。

これらに込めた、君たちへの思いを伝えます。

まず、個性のコラボレーションについてです。君たちには、高校生活の中で、仲間と切磋琢磨しながら個性を磨き、自分の強みを見出してもらいたい。その上で、自分と異なる個性を否定するのではなく、互いに認め合い、一緒に活動し、コラボレーションすることで、新たな価値を生み出してほしいと思っています。他人の良さに気付かずに、自己主張するだけでは、独りよがりの単なる我が儘となり、個性の融和は図れません。

中国の思想家 孔子の言葉を集めた論語の中に、「人の己を知らざるを憂うべからず、己の人を知らざるを憂うべし」という言葉があります。周囲が自分を理解してくれないことを悲しむよりも、自分が他人を理解できないことを悲しむべきだという意味です。

人の個性は様々です。元気良く外見上に現れるものもあれば、熱い思いを内に秘めた個性もあります。自己中心的な考えから一歩引いて、他者を理解することにより、自分の個性の発揮の仕方が分かり、個性をより輝かせることができるのです。

次に、社会の中で生き抜く力についてです。社会には、たくさんの課題が溢れています。世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症や昨年十月に発生した台風十九号に伴う豪雨災害などは、この地域でも極めて深刻な課題となっています。

しかし、このような社会の中で生き抜く術を、私たちは、九年前に発生した東日本大震災という、史上類のない複合災害を乗り越えてきた経験から学びました。

そこで君たちには、まず、高校生活の中で自分の良さに気づき、自分に自信を持ち、自分を愛し、大切にしてもらいたい。そして、生涯に渡り生き抜くことのできる普遍的な力、自分なりの生きる術、自分の強み、自分の武器を見出してほしいと思っています。

その上で、一人一人が課題に向き合い、周囲との絆を作りながら、自分の果たすべき役割を認識し、自分の強みを生かして主体的に行動してもらいたい。「与えられる人から与える人」に変わってほしいと願っています。

次に、安心して学べる環境づくりについてです。まず、私たち教職員は、君たちが安全に、安心して学ぶことができる学校づくりに全力で取り組んでいく覚悟です。その上で君たちは、毎日を過ごすこの学校を、誰もが居心地の良い空間としてください。互いの個性を認め合い、自分の個性に磨きをかける学舎には、いじめや暴力などは存在するはずありません。

しかし、差別やマナーを破ることはいけないこととする暗黙の了解、男女共生社会において適切な表現とは言いにくいのですが、いわゆる紳士協定があるにも関わらず、世の中には、未だに性別や肌の色の違い、病気や障がいなどによる差別や偏見が残っています。

「Boys be ambitious (少年よ大志を抱け)」という名言を世に残したクラーク博士は、北海道大学の前身、札幌農学校を開校するに当たり、学生たちに規則や社会の暗黙のルールを守り、立派な社会人になってほしいという願いを込めて、校則を定めました。その校則は「Be gentleman (紳士たれ)」の一言です。

光南高校には様々なルールや決まりがあり、社会には守るべきマナーや暗黙の了解があります。原発事故の風評被害に苦しんだ福島県民だからこそ、君たちには決まりはもとより、差別や偏見をもたないという暗黙の了解、紳士協定を守ってもらいたい。

成年年齢の引き下げにより、高校三年生になる二年後の四月一日以降、君たちは十八歳で成人し、大人として進路を自分で決めたり、様々な契約を結ぶことができるようになります。是非、光南高校において、日々の学びを通して人間性を高め、一人前の立派な大人になってください。

最後に、君たちにお願ひがあります。今日から始まる高校生活に対して、君たちと同じくらい保護者の方も不安を抱え、いつも以上に心配しています。余計な心配をさせないためには、何も言わずに大丈夫とするのではなく、学校生活の様子や学校からの連絡事項などを言葉で丁寧に伝え、ご家族の方を安心させてほしいと思います。それが、高等学校に通学させてもらっている高校生としての、大人としての責任です。

以上、君たち一人一人が、光南高校生として活躍することを心から願ひ、式辞といたします。

令和二年四月九日

福島県立光南高等学校長 郡司 完